



誕生院の中心な建物「御影堂」

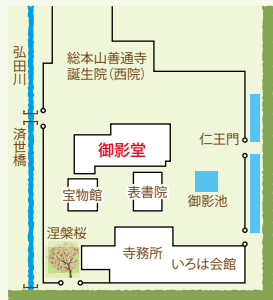
貴いお姿を伝える

弘法大師空海が生まれた佐伯家の邸宅跡に建てられた誕生院の中心な建物が「御影堂」です。現在の建物は天保2（1831）年に建てられ、昭和12（1937）年に大規模な改修を行いました。

真言宗では空海のお姿を「御影」と呼び、それをまつる建物を「御影堂」と言います。延暦23（804）年、空海は留学生として遣唐使の一団に加わり、現在の中国に渡るようになります。それを聞いた母・玉寄御前は今生の

別れになるかも知れないとたいそう悲しみました。そこで、空海は両親のために池のほとりの松の木に登り、水面に顔を映し自画像を描き形見としました。画中の空海の背後には、我拝師山から出現する釈迦如来があらわされる善通寺独自の図様です。

後年、土御門天皇がこの自画像をご覧になった時に瞬きをしたので、「瞬目大師」の尊号を賜りました。それ以降、秘仏として堂内にまつられ、大師信者の厚い信仰を集めています。



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間／朝勤行～17:00



壮麗な内陣を垣間見る御影堂

かいだん 戒壇めぐり

再生の喜びにつながる

御影堂のある西院は、弘法大師空海が生まれた佐伯家の邸宅跡に建てられています。御影堂は、空海御誕生所として多くの人の願いを受け止めてきました。この地下にある全長約100メートルの通路を巡るのが「戒壇めぐり」です。漆黒の闇の中を進み、自己を見つめ直す精神修養の空間です。その中心には、空海の母・玉寄御前のお部屋があったと伝わり、空海が産声を上げ、母に抱かれて幼少期を過ごした場所です。

美しい仏さまが描かれた壁に左手を伸ばし、ゆっくりと進みます。やがて、大日如来像の光に出会い、お大師さまとご縁を結びます。どこからか、ひとりひとりの魂に語りかけるようなお声も流れてきます。心を浄化し、闇をぬけ、生まれ変わる感覚にふれるという「戒壇めぐり」です。



お大師さまのご縁を結ぶ戒壇めぐり

- 善通寺町3-3-1
- JR善通寺駅から徒歩約17分
- 拝観時間／8:00～17:00(受付は16:30まで)
- 年中無休
- 戒壇めぐり・宝物館拝観料／大人500円
小・中学生300円
- 問い合わせ／☎ 0877-62-0111